

平成28年度 公の施設目標管理型評価書【旧小澤家住宅】

施設名	新潟市文化財旧小澤家住宅		
管理者名	(公財)新潟市芸術文化振興財団	指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日
担当課	歴史文化課		
所在地	新潟市中央区上大川前通12番町2733番地		
根拠法令	文化財保護法		
設置条例	新潟市文化財旧小澤家住宅条例		
施設概要	敷地面積 1,626.44㎡ 施設 木造2階建て 延床面積867.03㎡ 離れ座敷, 道具蔵, 次ノ間, 寝間, 藤ノ間, 座敷, 仏間, 茶ノ間, 百合ノ間, 情報案内所, 2階座敷他 庭園		

施設設置目的
<p>旧小澤家住宅を活用し、みなとまちとして発展してきた本市の歴史、生活文化、観光資源等に関する情報を広く提供するとともに、それらを通じて市民相互の交流を推進し、市民文化の向上及び地域の活性化に寄与することを目的として設置する。</p>
管理・運営に関する基本理念、方針等
<p>1. 基本理念 「新潟市文化財旧小澤家住宅条例」に基づき、「みなとまちとしての本市の歴史、生活文化、観光資源等に関する情報の提供等を行うことにより、みなとまち新潟に対する市民の理解を深め、市民相互の交流を推進し、もって市民文化の向上及び地域の活性化に寄与する」という旧小澤家住宅の設置目的を達成するための各種事業を行う。 施設の管理にあたっては、「新潟市歴史博物館・旧新潟税関庁舎等及び新潟市文化財旧小澤家住宅の指定管理に関する基本協定」「新潟市歴史博物館・旧新潟税関庁舎等及び新潟市文化財旧小澤家住宅の指定管理に関する年度協定」に従い、かつ各関連法規を遵守し、施設運営を通じて、新潟市の歴史文化施策の実現に努める。</p> <p>2. 活動方針</p> <p>①みなとまち新潟の歴史並びに生活文化を紹介する。</p> <p>②市民の歴史・文化に対する理解、親しみ、郷土への愛着を深める。</p> <p>③歴史・文化を媒体とした市民交流を行う。</p> <p>④文化財を保存・活用する。</p> <p>⑤新潟市の伝統工芸品の魅力紹介と販売促進に寄与する。</p> <p>⑥観光施設としての役割を担う。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
市 民	年間入館者数	年間入館者数1万7千人以上	15,795人	C	定着しているイベントを継続するほか、施設の特徴を生かした企画や、みなとまち新潟の魅力を活かした企画等、新規来館者の開拓も行ってほしい。
	企画展を年8本以上実施	企画展を年8本以上実施	年間14本実施した。	A	地元に着目した企画展の開催や他団体との共催など精力的に実施している。
	教育普及事業の実施	歴史に関する講座等を年10回以上実施	そば猪口講座全2回、庭園講習会全2回、からくり人形実演全8回、落語講演会1回、新潟の観光と歴史に関する講演会1回、ふろしき講座全2回、ワイン講座1回、箏と尺八の演奏会1回、日本酒講座1回 (全19回)	A	指標を上回る回数の講座等を開催した。
		体験プログラムを年12回以上実施	沈金・研ぎ出し体験全12回、金具打ち体験2回、蒔絵体験全1回、正月飾り作り体験1回、博学産民連携きなせや下町事業1回、フラワーアレンジメント体験1回、ひな人形作り体験1回 (全19回)	A	指標を上回る回数の体験プログラムを開催した。
	学校との連携	小中学校の団体を年2回以上受け入れる	見学の際の解説(8回)を行った。 企画展やイベントのチラシを近隣の小学校に配布した。 学校の課外授業の際、トイレ休憩場所として情報案内所を提供した。	A	小中学校の見学件数は安定している。 小中学生も楽しめるような企画や体験プログラムを開催し、今後も件数を増やしてほしい。
	歴史文化事業の情報発信	ホームページ月3回以上更新し、情報発信を行う	1年間で39回の更新(月平均3.3回) ツイッターの更新もこまめに行い、リアルタイムでの情報発信に努めた。	B	
	来館者アンケート満足度	来館者に対するアンケートで、「大変良かった」「まあ良かった」が70%以上	「大変良かった」「まあ良かった」合計98%	A	指標を上回る結果となった。
	市民からの問合せに対する対応	質問・問合せには速やかに対応	問い合わせには受付や電話で即時対応した。 すぐにはわからない質問に対しては、調べた後すぐに回答した。	B	
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望に対して、3営業日以内に回答	ホームページの交通案内が古い情報のままであるという指摘を受け、即時更新した。	B	
	ボランティア事業	ボランティア会員の活動日数を年100日以上実施	年間156日 (ガイド人数1,243人)	A	指標を上回る日数を実施した。
財 務	管理経費の削減	管理運営経費を指定管理料年度協定額以下	協定費31,827,000円 決算額28,527,594円	A	経費の削減に努め、協定額以下に納めた。
	市の歳入確保	歴史文化事業費の執行額に占める観覧料等収入の割合70%以上	文化事業費2,148,134円 収入2,110,080円(観覧料・物品売払料・事業収入・寄付金収入) 98%	A	指標を上回る割合となった。
業 務	他施設との連携	他施設との連携事業を年2回以上実施	「江戸時代の伊万里焼」展(埋蔵文化財センター)、「絵解き謎解きそば猪口」展(そば猪口美術館)、「屏風」展(新潟市歴史博物館)、「海のこともっと知ろう!」展((社)JEAN、マリネピア日本海)、「新潟漆器」展(新潟市漆器同業組合)、「古今東西ふろしき百」展(ふろしきや)、「新潟仏壇」展(新潟市仏壇組合)、「猫まつり」展(新潟ハイカラ文庫)、「ひな人形とからくり人形」展(新潟ハイカラ文庫)、「白を贈る」展((株)横正機業場、植物染め浜五)、「からくり人形実演」(越後大郷からくり館)、「きなせや下町」(新潟大学工学部建設学科、下本町商店街、旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会)、「山野草の展示」(花や木下)、「夏至祭」(DAIDOCO)、「フレッシュ本町まつりスタンプラリー」(下本町商店街、入船地藏尊)、「ワインの昼べ」((株)ホクセイ)、「秋の大文化祭」(旧小澤家活用実行委員会、小澤商店、SugarCOAT、6/7、BarBookBox、百歳市)、「花で彩る」(水曜日のお花の会)、「正月飾り作り」「ひな人形作り」(新潟アグリクラブ)、「日本酒の昼べ」(BarBookBox)「周辺の歴史的町並みの保存・活用」(旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会) 計22回	A	指標を大幅に上回る回数の連携事業を行った。
	日常連絡の適切さ	3か月毎の管理業状況報告の期限内提出	それぞれ7月20日、10月20日、1月20日、翌年度4月20日までに提出した。	B	
	安全確保体制の確立	防火管理者の選任及び防災訓練を年2回以上実施	防火管理者による防災訓練を2回実施した。 今回は実態に合わせて、館内に職員が1名しかいない場合を想定し訓練を実施した。	B	
	文化財の適正な管理	条例、規則、協定等に基づく適正な管理の実施	文化財の適正な管理に努めた。	B	
	歴史資料の適正な管理	施設内でのくん蒸等を年1回以上実施	虫干し、館内メンテナンスを1回ずつ、計2回行った。	B	

	施設の管理に係る関係法令の遵守	コンプライアンス研修の年1回実施	館長より1回実施。	B
		施設設備関係の各種法定点検の確実実施	防災設備を年2回点検した。	B
	事件・事故発生時の対応の適切さ	連絡体制の確立	連絡網を実態に合わせて修正した。	B
	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	協定等に基づき、適正な管理運営を行った。	B
人 材	職員研修の実施	専門員及び事務職員に対する研修を年2回以上実施	ミュージアム・マネジメント研修1回（館長）、課長代理・主査研修1回。	B
	接遇マナーの維持・向上	接遇研修を年1回以上実施	受付職員3名が、みなどびあで1回ずつ実施。	B

指定管理者記載欄（アピールしたい事項・未達成項目への改善策等）	
<p>入館者数が目標を下回った。他施設の企画展との競合や宣伝に起因しているものと考え。今年度、新たに企画した製作体験や講座は多くの方に参加いただき好評であった。今後は、従来の企画との違いや新たな楽しみなど「違い」をアピールできるような広報や紹介を行っていききたい。企画のネーミングや展示方法などの改良も検討したいと考えている。</p> <p>また、「商店会」など地域や体験の要素を増やすため他団体等との連携、「みなどびあ」との連携を一層図りたい。</p>	

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 （ 所 見 ）	
<p>指標を上回る回数の講座や体験プログラム、連携事業を行うなど集客に努めているが、残念ながら年度ごとに入館者数が減少している。地域に根付いた施設であり、地元団体からは安定した利用があるので、PRを強化するなどし市内外の新規来場者の獲得につなげてほしい。</p> <p>新潟市を含む地域が「北前船寄港地」として日本遺産に認定され、また平成31年には開港150年を迎えるなど市全体の機運が高まっている。日本遺産の構成文化財であり、新潟市の文化財を体感できる貴重な施設として、この機会を積極的に活用し、率先してみなどまち新潟の魅力の発信を行ってほしい。</p>	

評価基準

- A 要求水準（＝評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている。
- B 要求水準（＝評価指標）が達成されている。
- C 要求水準（＝評価指標）が達成されていない。